

令和6年度 事業報告書

【 目 次 】

I. 日本赤十字社神奈川県支部	1
II. 神奈川県ライトセンター	7
III. 横浜市立みなと赤十字病院	12
IV. 秦野赤十字病院	15
V. 相模原赤十字病院	17
VI. 神奈川県赤十字血液センター	19
VII. 神奈川県内赤十字施設 決算概要	23

(別冊) 日本赤十字社神奈川県支部事業報告書データ集 (令和6年度版)



I. 日本赤十字社神奈川県支部

赤十字が担うべき役割を果たすべく、第4期中期事業計画（令和5年度～7年度）に基づき事業を展開しました。また、同計画における到達目標を達成するため、事業の拡大に取り組みました。

1. 令和6年度の主な取り組み

(1) 災害救護事業

- 日々変化する災害救護業務に対応すべく、様々な研修・訓練を行い、救護員を育成するとともに、効果的な救護活動が行えるよう救護資機材の整備を行いました。
- 地域住民が自ら災害から命を守り心身の苦痛を軽減する、防災教育事業（赤十字防災セミナー）を開催しました。

ア. 災害救護要員の養成・強化（重点施策1）

（ア）本社・近隣支部との会議・研究会	9 回
（イ）訓練・各種研修会等の実施及び参加	19 回 320 人

イ. 救護資機材の整備（重点施策1）

（ア）救護活動用車両	2 台
（イ）トリアージタッグ	400 枚
（ウ）ライティングシート	40 本
（エ）非常食	206 箱
（オ）救護活動用パソコン	6 台
（カ）地区・分区への災害救援車配備	8 地区・分区 8 台

ウ. 防災・減災思想の普及・地域での取り組み支援（重点施策2）

（ア）赤十字防災セミナー	36 回 1,523 人
（イ）赤十字防災教育事業指導者養成研修	2 回 40 人

エ. 県内援護事業等の実施

（ア）災害見舞金	257 世帯
（イ）援護物資	282 セット
（ウ）重傷見舞金	20 人
（エ）死亡弔慰金	42 人
（オ）床上浸水見舞金	1 世帯
（カ）臨時救護事業	12 回 21 人

オ. 国内災害義援金の受付

（ア）県内受付	1,019 件 171,407,711 円
---------	----------------------------



(2) 健康・安全事業

- 救急法等の講習の普及に努め、県内すべての地域で講習が開催されるよう働きかけを行いました。
- 講習普及における指導体制の強化を図るため、水上安全法指導員Ⅰ養成講習及び健康生活支援講習指導員養成講習を開催しました。

ア. 健康・安全事業の推進（重点施策 3）

（ア）救急法

基礎講習	151 回	2,904 人
------	-------	---------

救急員養成講習	61 回	1,266 人
---------	------	---------

短期講習	481 回	12,607 人
------	-------	----------

（イ）水上安全法

救助員Ⅰ養成講習	16 回	196 人
----------	------	-------

救助員Ⅱ養成講習	2 回	6 人
----------	-----	-----

短期講習	82 回	2,120 人
------	------	---------

（ウ）健康生活支援講習

支援員養成講習	6 回	53 人
---------	-----	------

短期講習	94 回	2,004 人
------	------	---------

（エ）幼児安全法

支援員養成講習	16 回	264 人
---------	------	-------

短期講習	120 回	1,845 人
------	-------	---------

イ. 健康・安全思想の普及を目的としたイベント等の開催

（ア）赤十字救急法競技会

参加人数	429 人
------	-------

参加チーム数	43 チーム
--------	--------

（イ）地域イベントへの体験ブース出展

4 回	1,581 人
-----	---------

ウ. 普及体制の強化

（ア）水上安全法指導員Ⅰ養成講習

1 回	20 人
-----	------

（イ）健康生活支援講習指導員養成講習

1 回	18 人
-----	------

（ウ）指導員研修会

1 回	504 人
-----	-------

エ. 地区・分区で主催する講習会の増加促進（重点施策 3）

- (ア) 新たな講習促進モデル地区・分区の選定
 (イ) 新たな講習促進モデル地区・分区での開催
 (ウ) 継続モデル地区・分区での開催

	4 地区・1 分区	
	6 回	121 人
	2 回	41 人

オ. 他団体との協働事業の推進

- (ア) 神奈川県警察
 (イ) 一般社団法人神奈川県指定自動車教習所協会
 (ウ) 東日本旅客鉄道株式会社（JR 東日本）
 (エ) 一般社団法人神奈川県バス協会
 (オ) 独立行政法人都市再生機構

	2 回	63 人
	1 回	38 人
	12 回	250 人
	2 回	36 人
	2 回	66 人



(3) 国際活動

○開発協力事業の活動資金支援や青少年赤十字国際交流事業などの国際活動に取り組みました。

ア. 国際救援・開発協力

- (ア) 国際救援要員・開発協力要員の養成
 (イ) 救急法普及支援（ラオス）
 (ウ) 保健医療支援（バングラデシュ）
 (エ) 気候変動等レジリエンス強化（ルワンダ）

	0 人
活動資金支援	500,000 円
活動資金支援	2,000,000 円
活動資金支援	2,500,000 円

イ. 安否調査

- (ア) 離散家族等の安否調査

0 件

ウ. 国際交流事業

- (ア) 青少年赤十字国際交流事業

シンガポール赤十字社とのオンライン交流

6 校 24 人

エ. 海外救援金の受付

- (ア) 県内受付

556 件 38,092,782 円

(4) 赤十字ボランティア

○充実した活動につながる階層別研修会を開催し、奉仕団の活動促進、奉仕団相互の連携強化に努めました。

ア. 赤十字奉仕団相互の連携強化および活動活性化（重点施策 8）

（ア）支部委員会・連絡協議会等の開催	14 回	265 人
（イ）本社・第 2 ブロック支部行事への参加	7 回	8 人
（ウ）赤十字奉仕団交流会	3 回	145 人

イ. 赤十字奉仕団員の育成・支援

（ア）奉仕団活動への助成		32 団
（イ）視覚障害援助関係奉仕団への資機材支援		9 団
（ウ）奉仕団の充実した活動に繋がる研修	45 回	579 人

ウ. 赤十字防災ボランティアの育成・支援（重点施策 8）

（ア）赤十字防災ボランティア養成等研修会（本社主催含む）	9 回	39 人
（イ）赤十字防災ボランティアとの連携による訓練	1 回	7 人

エ. ボランティアの事業参画の促進

（ア）講習普及事務協力ボランティア	6 日	89 人
（イ）赤十字防災セミナー及び防災教育プログラムへのボランティア協力	33 回	53 人
（ウ）学校で行う健康安全プログラムへのボランティア協力	19 回	68 人



(5) 青少年赤十字

○学校での健康安全プログラムや防災教育の推進を通して、更なる青少年赤十字の普及を図りました。

ア. 令和 6 年度青少年赤十字登録状況

（ア）登録校数	114 校	前年度比+15 校
（イ）校種別内訳		

- ・幼稚園・保育園
- ・小学校
- ・中学校
- ・高等学校
- ・中学校・高等学校
- ・特別支援学校

6 園	前年度比	±0 校
21 校	前年度比	+5 校
25 校	前年度比	+1 校
34 校	前年度比	+4 校
20 校	前年度比	+2 校
8 校	前年度比	+3 校

イ. 青少年赤十字の普及・増強（重点施策 4）

（ア）青少年赤十字登録促進・青少年赤十字メンバー増強

- ・校長会、研修会等での積極的な PR

11 回

（イ）青少年赤十字指導者の養成、教員を対象とした研修等

- ・教職員対象青少年赤十字スキルアップ講習会
- ・『まもるいのちひろめるぼうさい』活用講座
- ・神奈川県立総合教育センター主催教職員対象研修講座
- ・神奈川県青少年赤十字指導者協議会関連会議の開催
- ・連絡協議会等への運営費助成等

1 回 13 人

1 回 7 人

1 回 26 人

4 回 35 人

1 地区

ウ. 青少年赤十字の事業・活動

（ア）健康安全プログラムの実施

15 校 24 回 899 人

（イ）防災教育プログラムの実施

8 校 9 回 1,039 人

（ウ）国際人道法研修会

5 校 1 回 26 人

（エ）リーダーシップ・トレーニング・センター（LTC）の開催

2 回 24 人

（オ）青少年赤十字登録式

1 校 460 人

（カ）人権教育講演会

1 校 317 人

（キ）国際人道法講演会

3 校 857 人

（ク）キャリア教育

2 校 215 人



(6) 赤十字思想の普及

○SNS を用いた情報発信強化のため、SNS キャンペーンを実施し、フォロワーを獲得しました。

○前年度に引き続き、赤十字の活動を紹介する新聞折込チラシを 150 万部配布しました。

○赤十字事業をより分かりやすく県民・支援者の方に伝えるため、統一デザインの事業紹介チラシを事業項目ごとに作成しました。

ア. 赤十字運動月間キャンペーンの横断的な展開（重点施策 6）

（ア）レッドライトアッププロジェクト

12 施設

（イ）公共交通機関の協力による広報

2 社 77 駅

イ. 広報活動の促進・強化（重点施策 5・7）

（ア）新聞折込チラシ

7 紙 1,564,000 部

（イ）SNS 等による情報の発信

・ フォロワー

12,409 人

・ 発信回数

437 回

（ウ）「かながわ赤十字情報プラザ」見学

50 団体 1,901 人

（エ）夏季イベント「赤十字 de 自由研究 “いのち” を守る体験教室」

9 回 252 人

（オ）大学での国際人道法講義

1 回 41 人

ウ. 組織基盤の強化（重点施策 6）

（ア）県内赤十字施設が協働した広報活動（広報委員会等の実施）

5 回

（イ）マスメディアとの連携強化

・ プレスリリース発出

19 件

・ 新聞・タウン誌掲載

33 回

・ テレビ・ラジオ報道・出演

6 回

（ウ）神奈川県日赤紺綬有功会との連携強化

・ 赤十字活動資金への協力

52,550,263 円

・ 特別事業募金への協力（相模原赤十字病院に対する支援）

1,534,000 円

エ. 企業・赤十字が連携する CSR 活動の推進（重点施策 6）

（ア）寄付金付自動販売機 新規設置

5 社 5 台

（イ）赤十字支援マーク 新規活用

0 社



Ⅱ. 神奈川県ライトセンター

- 視覚障がい者のための総合的な福祉施設として、指定管理業務である 5 つの柱の事業を積極的に行いました。
- 視覚障がい者の読書ニーズに応えるために点字や録音図書の製作をボランティアの協力を得て引き続き進めました。
- 視覚障がい者に有用な情報を提供する機会やライトセンター事業やボランティア活動の理解を深める場として「ライトセンターオープンデー」（施設公開）を視援奉（神奈川県視覚障害援助赤十字奉仕団）と共催しました。



1. 令和 6 年度の運営について

- 新型コロナウイルス感染症による影響を正常化させ、ボランティア養成講座やスポーツ教室など通常に戻し実施しました。
- 「施設公開」は、視覚障がい者をメインに機器紹介、ボランティア活動紹介、図書館紹介などライトセンター事業の理解促進のために「ライトセンターオープンデー」として開催しました。
- ボランティア減少の影響を低減するためにボランティア養成講座のチラシを全面リニューアルするとともに、周知についても新聞折り込みの実施や相模鉄道の協力により各駅に配架するなど取り組みました。

(1) 情報提供事業

ア. 登録者数

(ア) 利用登録者数

2,586 人

(イ) 新規登録者

24 人

イ. 蔵書数の状況

	令和 5 年度	令和 6 年度	増減
点字図書	22,277 冊	22,598 冊	321 冊
デージー図書	6,645 巻	6,826 巻	181 巻
拡大図書	191 冊	192 冊	1 冊
合計	29,113	29,616	503

ウ. ボランティア製作図書数

	令和 5 年度	令和 6 年度	増減
点字図書	378 冊	349 冊	▲29 冊
デージー図書	165 巻	136 巻	▲29 巻
拡大図書	19 冊	1 冊	▲18 冊
テキストデージー	31 巻	22 巻	▲9 巻
合計	593	508	▲85

エ. 製作貸出状況

		点字図書	デージー図書	合計
図書貸出数	令和 5 年度	1, 404	27, 864	29, 268
	令和 6 年度	1, 185	27, 073	28, 258
	対前年度	▲219	▲791	▲1, 010
サピエダウンロード タイトル数	令和 5 年度	4, 632	1, 549	6, 181
	令和 6 年度	4, 302	1, 673	5, 975
	対前年度	▲330	124	▲206
サピエ 実利用人数	令和 5 年度	1, 396	1, 171	2, 567
	令和 6 年度	1, 400	964	2, 364
	対前年度	4	▲207	▲203
サピエ 延べ利用人数	令和 5 年度	15, 072	7, 459	22, 531
	令和 6 年度	14, 242	6, 637	20, 879
	対前年度	▲830	▲822	▲1, 652

※点字図書全体の利用は減少傾向が続いている。

オ. 定期刊行物の製作・発行および貸出

	種別	種類	配布・貸出部数
自館発行	点字図書	6 種類	4, 131
	デージー図書	15 種類	19, 542
	墨字版	3 種類	8, 911
	計	24 種類	32, 584
他団体発行	点字図書	14 種類	806
	デージー図書	84 種類	7, 991
	計	98 種類	8, 797

※デージー雑誌は全国最多種類を製作

(2) 指導訓練事業

項目（人数・件数）		令和5年度	令和6年度	増減
相談・訓練件数		3,141	3,062	▲79
相談・訓練実人数	視覚障がい者	689	654	▲35
	晴眼者	134	178	44
電話相談件数		1,681	1,602	▲79
訪問相談・訓練件数		208	269	61
来所相談・訓練件数		514	528	14
オンラインによる相談件数		1	0	▲1

ア．相談・訓練の状況

イ．年代別対応人数

年齢	0～5	～10	～20	～30	～40	合計
人数	0人	0人	7人	10人	7人	654人
年齢	～50	～60	～70	71～	不明	
人数	23人	55人	53人	101人	398人	

ウ．技術講習会・教養講座の開催

（ア）教養講座・技術講座

4回 55人

エ．利用者交流広場の開催

（ア）ライトセンターサロン・ライトなんでもアリーナ（オンライン含む）

13回 198人



(3) スポーツ振興事業

ア．登録者・利用者数

（ア）利用登録者数

435人

（イ）新規登録者

24人

（ウ）利用者数

8,829人

イ. スポーツ教室等

(ア) ライトセンター会場のスポーツ教室

・いきいき筋力アップ教室

6 回 83 人

・ローインパクトエアロビクス教室

6 回 54 人

(イ) 県立スポーツセンターを会場とした水泳教室

12 回 161 人

(ウ) 地域スポーツ振興（相模原市）

1 回 72 人



(4) ボランティア育成事業

ア. 神奈川県視覚障害援助赤十字奉仕団登録実人数

481 人

イ. ボランティア来館活動日数・人数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
活動日数	25 日	24 日	26 日	26 日	25 日	24 日	295 日
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
	27 日	24 日	24 日	23 日	22 日	25 日	
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
活動人数	1,454 人	1,350 人	1,361 人	1,258 人	921 人	1,171 人	15,466 人
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
	1,649 人	1,314 人	1,166 人	1,233 人	1,241 人	1,348 人	

ウ. 各種ボランティア養成講座の実施

(ア) 入門講座

3 回 79 人

(イ) 点訳講座

1 回 12 人

(ウ) 録音講座（基礎）

1 回 13 人

(エ) 録音講座（応用）

1 回 12 人

(オ) 誘導法講座

2 回 12 人

(カ) 拡大写本講座

1 回 6 人

(キ) スポーツ&レクリエーションボランティア講座

1 回 7 人

(ク) デジタル録音編集講座

1 回 8 人

(ケ) IT サポートボランティア講座

1 回 2 人

- (コ) 点訳図書校正講座
- (サ) 指導者養成講座
- (シ) 特殊点訳講座（英語）
- (ス) 点字指導法講座

1 回	8 人
1 回	34 人
1 回	12 人
1 回	13 人



(5) 普及啓発事業

- ア. 機関紙「ライトセンターだより」の発行
- イ. 施設公開「ライトセンターオープンデー」の開催
- ウ. 福祉教室の開催

	723 人
31 回	1,428 人



Ⅲ. 横浜市立みなと赤十字病院

横浜市立みなと赤十字病院は、「人道・博愛の赤十字精神」のもと、患者の権利を尊重した良質で高度な医療を提供し、市民の健康増進に貢献しています。



1. 病院概要等

(1) 病床数

許可病床	634 床
一般	584 床
精神	50 床

(2) 入院・外来患者数

	入院	外来
年間延べ患者数	188,658 人	282,558 人
1日あたりの患者数	516.9 人	1,162.8 人
病床利用率	81.5%	-
診療単価	91,488 円	18,163 円

(3) 診療科

内科、内分泌内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ科、緩和ケア内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科、循環器内科、脳神経内科、アレルギー科、精神科、小児科、外科、消化器外科、大腸外科、肝臓外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科 計 36 科

(4) 医療社会事業

項目	人数
人間ドック	2,549 人
母親教室	602 人
乳幼児健診	555 人
栄養相談	5,369 人
妊産婦検診	4,914 人
糖尿病教育入院栄養指導	146 人
企業健診	221 人
一般健診	151 人
ガン検診	6,095 人

横浜市健康診査		602 人
横浜市国保特定健診		1,330 人
被爆者健診		54 人
福島県民健康調査		5 人
特定保健指導		76 人
予防接種		489 人
救急法講習	7 回	73 人
健康生活支援講習	2 回	23 人
こころのケア研修会	3 回	27 人
地域の医療従事者に対する研修（みなとセミナー等）	20 回	689 人
市民健康講座	1 回	105 人
関節リウマチ教室	5 回	148 人
成人喘息アレルギー教室	3 回	57 人
喘息相談	36 回	61 人
小児喘息教室	3 回	157 人
食物アレルギー研修	32 回	1,681 人
糖尿病講座等	8 回	93 人
腎臓病教室	1 回	41 人

2. 令和6年度の主な取り組み

(1) 安定した経営基盤の確立

- ア. みなと Reborn Project による病院内外に向けた広報戦略
- イ. 患者確保のための送迎用バスの導入に向けた対応
- ウ. クリニカルパスの見直し

(2) 働き方改革への対応

- ア. 医師事務作業補助者の増員
- イ. 介護福祉士、看護助手の増員

(3) 老朽化した施設、設備の改修、更新

- ア. ロボットによる物品搬送体制の導入に向けた対応
- イ. CTの更新
- ウ. 電気設備、空調の更新に向けた対応
- エ. コンビニ、レストラン委託業者の選定

(4) 電子カルテのシステムの更新

- ア. 2025 年 5 月の更新に向けた対応



(5) その他

- ア. 心房細動への新たな治療法の導入
- イ. 心臓リハビリテーションの開始
- ウ. 放射線機器の共同利用 Web 予約開始
- エ. 生体腎移植の開始
- オ. 狭隘化した施設の再整備
- カ. S E スタッフのジョブ型雇用
- キ. 派遣、委託業務の内製化
- ク. 人材育成部門の設置に向けた対応
- ケ. スマホアプリを利用した新たな取り組み

IV. 秦野赤十字病院

秦野赤十字病院は、開院以来、秦野市の基幹的医療機関として地域の急性期医療を担ってきました。今後も安全で質の高い医療を提供し、地域医療に貢献いたします。

1. 病院概要等

(1) 病床数

許可病床	308 床	実働病床	262 床
急性期	255 床	急性期	210 床
地域包括ケア	47 床	地域包括ケア	46 床
HCU	6 床	HCU	6 床

(2) 入院・外来患者数

	入院	外来
年間延べ患者数	71,218 人	113,664 人
1 日あたりの患者数	195.1 人	467.8 人
病床利用率	74.5%	-
診療単価	61,369 円	14,391 円

(3) 診療科

内科、脳神経内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、小児科、
外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、
放射線科、麻酔科、形成外科、皮膚科、救急科

計 20 科

(4) 医療社会事業

項目	人数
人間ドック	3,646 人
訪問看護	3,682 回 728 人
乳幼児健診	50 人
栄養指導	2,505 人
企業健診	182 人
一般健診	14 人
被爆者健診	4 人
福島県民健康調査	5 人
ガン検診	991 人

成人（高齢者）健診		553 人
予防接種		862 人
救急法講習	2 回	34 人
健康生活支援講習	1 回	6 人
幼児安全法講習	1 回	10 人

2. 令和6年度の主な取り組み

(1) 病院運営

- ア. 本社「グループ重点支援病院」指定
- イ. 経営の健全化
 - ・経営改善会議の設置
 - ・緊急診療科ヒアリング
 - ・AIS/ACS 救急受入WG 調査・報告
 - ・小児科夜間・休日診療体制の見直し



(2) 医療の質の向上

- ア. 病院機能評価受審（令和6年9月）・認定
- イ. 人間ドック健診施設機能評価受審（令和7年2月）・認定
- ウ. 東海大学クリニカルクラークシップ受け入れ

(3) 地域医療連携

- ア. 地域医療連携懇話会の開催
- イ. 地域医療従事者向け研修会の実施
- ウ. 開業医向け「診療のご案内」刷新、初診枠設定



(4) 強化事業

- ア. 災害医療対応能力向上計画策定
(HARD-MAP/2025.1~2027.12)
- イ. 広報事業
 - ・病院ホームページのリニューアル
 - ・看護部パンフレット刷新



V. 相模原赤十字病院

○相模原赤十字病院は、相模原市西部地域唯一の公的医療機関として地域医療のニーズに応えるとともに、エイズ治療拠点病院・災害医療拠点病院としての活動、健康増進事業・訪問看護ステーション業務など医療事業の一層の充実・強化に取り組んできました。

○相模原市西部地区は、市内において著しく高齢化が進む地域とされており、2025 年を見据えた地域包括ケアシステムと相模原市の地域医療構想を踏まえた病院の在り方を検討し、一病棟を地域包括ケア病棟に転換しています。

1. 病院概要等

(1) 病床数

許可病床	132 床
一般	92 床
地域包括ケア	40 床

(2) 入院・外来患者数

	入院	外来
年間延べ患者数	35,349 人	80,995 人
1 日あたりの患者数	96.8 人	301.1 人
病床利用率	73.4%	-
診療単価	48,543 円	11,899 円

(3) 診療科

内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、腎臓内科、外科、乳腺外科、
肛門外科、整形外科、脳神経外科、リハビリテーション科、小児科、眼科、婦人科、
精神科、耳鼻いんこう科、皮膚科、泌尿器科、放射線科、麻酔科 計 21 科

(4) 医療社会事業

項目	人数
人間ドック	482 人
訪問看護	4,046 人
乳幼児健診	549 人
小児健診	674 人
栄養相談	420 人
糖尿病教室	18 人

企業健診	1,402 人
一般・成人病健診	1,722 人
ガン検診	6,179 人
予防接種	1,583 人
救急法講習	2 回 24 人
1 日看護体験	6 人
こころのケア研修会	2 人

(5) 診療所の運営（相模原市からの指定管理）

青野原診療所

千木良診療所

藤野診療所

2. 令和 6 年度の主な取り組み

(1) 健全経営の対応

- ア．コロナ専用病棟の一部を一般病床に開放したことによる入院診療収益の増加
- イ．二次救急輪番への非常勤医師配置による医師の負担軽減



(2) 赤十字事業の普及・救護活動

- ア．総合防災訓練の実施（11/2）
- イ．近隣福祉施設への救急法講習会開催（7/18, 7/31, 9/10, 9/17）

(3) 電子カルテシステムの更新

- ア．本稼働（12/1）



VI. 神奈川県赤十字血液センター

- 血液センターは、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、および関係省令に基づき、国、地方公共団体と一体となり血液事業を運営しています。
- 血液事業は、安全性の向上、安定供給の確保はもちろんのこと、事業者の責務として効率的な事業運営を行うことが求められています。
- 関東甲信越ブロック血液センターとの一体的な運営、広域的な需給管理を行い、地域連携を強化し、県民の皆さまや医療機関等から信頼される血液事業を展開しました。

1. 施設概要等

(1) 施設

ア. 神奈川県赤十字血液センター（横浜市港北区）

イ. 湘南事業所（厚木市）

ウ. 献血ルーム（7 施設）

- ・横浜 SKY 献血ルーム（30 ベッド）
- ・横浜 Leaf 献血ルーム（20 ベッド）
- ・かわさきルフロン献血ルーム（20 ベッド）
- ・二俣川献血ルーム（7 ベッド）
- ・みぞのくち献血ルーム（10 ベッド）
- ・海老名献血ルーム（14 ベッド）
- ・クロスウェーブ湘南藤沢献血ルーム（12 ベッド）



(2) 車両

神奈川県赤十字血液センター	移動採血車	6 台
	血液運搬車	24 台
	広報車・その他	20 台

湘南事業所	移動採血車	5 台
	血液運搬車	15 台
	広報車・その他	12 台

2. 令和6年度の主な取り組み

(1)採血・供給業務

採血数		供給数	
全血献血	221,457 人	赤血球製剤	224,250 本
成分献血（血漿）	80,556 人	血漿製剤	70,263 本
成分献血（血小板）	36,039 人	血小板製剤	53,686 本
合計	338,052 人	合計	348,199 本

(2)献血思想の普及

ア. 若年層への献血思想の普及

(ア) 全国統一『THINK！献血』プロジェクトの実施

(イ) プロスポーツチームとのコラボキャンペーン等の実施

(実績) 横浜 DeNA ベイスターズ、横浜 F・マリノス、川崎フロンターレ、
湘南ベルマーレ、横浜 FC、SC 相模原、Y. S. C. C. 横浜、
横浜キヤノンイーグルス、YOKOHAMA TKM



(ウ) 訴求力のある確保キャンペーンの実施



(エ) はたちの献血キャンペーンの実施

(オ) 学生献血推進団体との広報活動の実施

(カ) 中学校、高等学校、大学、専門学校の施設見学および職業体験の受け入れ 20 回 286 人

(キ) 小学校、中学校、高等学校への献血セミナーの実施 19 回 4,363 人

(ク) 疑似献血体験イベントの実施 2 回 1,299 人

イ. 献血 WEB 会員サービス「ラブラッド」会員の確保

(ア) 新規会員 25,591 人 対前年度 -2,159 人

(イ) 成分献血予約率 94.8 % 対前年度 +2.0 ポイント

(ウ) 全血献血予約率 44.4 % 対前年度 +5.1 ポイント

ウ. SNS での情報発信

(ア) X (旧 Twitter) 発信数 3,056 件 対前年度 +1,063 件

フォロワー数 20,416 人 対前年度 +5,821 人

(イ) Facebook 発信数 247 件 対前年度 -156 件

フォロワー数 6,687 人 対前年度 +17 人

(ウ) Instagram 発信数 193 件 対前年度 +173 件

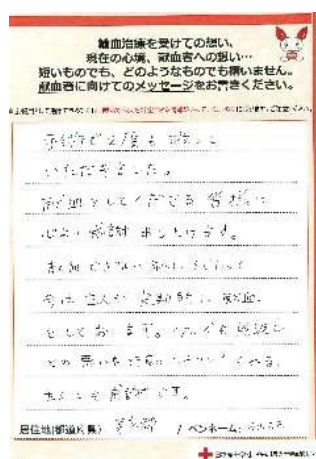
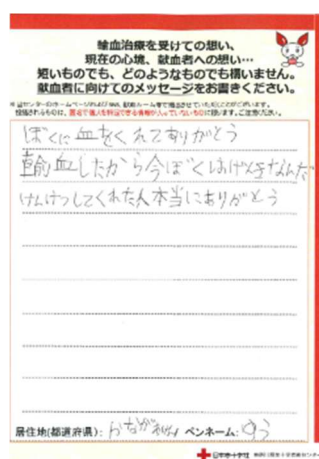
フォロワー数 1,132 人 対前年度 +193 人

エ. WEB 等を活用した情報発信

(ア) 輸血経験のある方からの感謝メッセージの発信および募集

・WEB 受信 3 件

・医療機関（院内ポスト）からの投稿 24 件



オ. お礼メールの発信

(ア) 初回献血者への輸血経験者の声を添えたお礼メールの発信 10,376 件

(3) 効率的な献血ルームの運営

- ア. さらなる献血者確保への基盤づくりとして、8 か所目の献血ルームの新規開所について検討

(4) 働きやすい職場環境の実現

- ア. 移動採血の効率改善

(5) 危機事象、不測の事態に強い体制づくり

- ア. 事業継続体制の確保
 - ・ブロックセンターとの定期的な災害対応訓練の実施
 - ・首都直下地震等で直接的な被害を想定したマニュアルの更新
 - ・マニュアルの更新に伴う徒歩参集訓練の実施

VI. 神奈川県内赤十字施設 決算概要（令和6年度）

1. 一般会計

施設名	収入	支出	収入支出差引額
日本赤十字社神奈川県支部	1,449,445,755 円	1,063,443,925 円	386,001,830 円

※収入・支出ともに、資金制度見直しに伴う特例措置による災害等資金から施設整備準備資金への積替分は除いています。

2. 社会福祉施設特別会計

施設名	収入	支出	収入支出差引額
神奈川県ライトセンター	415,443,506 円	335,723,485 円	79,720,021 円

3. 医療施設特別会計

(1) 収益的収入及び支出

施設名	収入	支出	収入支出差引額
横浜市立みなと赤十字病院	24,038,059,322 円	23,259,580,820 円	778,478,502 円
秦野赤十字病院	6,642,057,468 円	6,935,925,861 円	△293,868,393 円
相模原赤十字病院	3,361,658,850 円	3,327,176,057 円	34,482,793 円
計	34,041,775,640 円	33,522,682,738 円	519,092,902 円

(2) 資本的収入及び支出

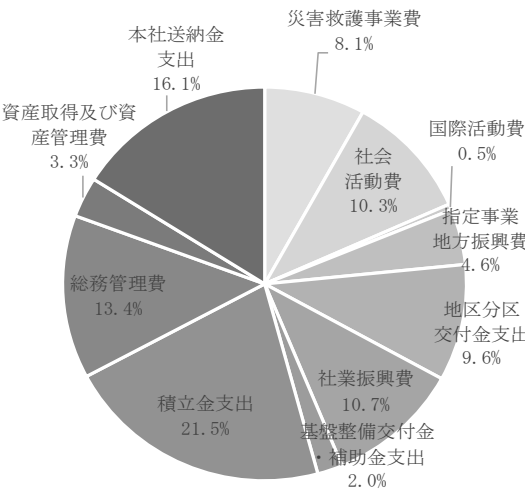
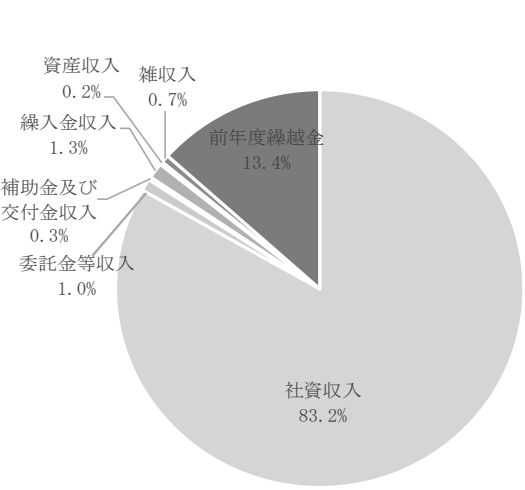
施設名	収入	支出	収入支出差引額
横浜市立みなと赤十字病院	1,260,129,740 円	1,260,129,740 円	0 円
秦野赤十字病院	1,141,189,482 円	1,141,189,482 円	0 円
相模原赤十字病院	743,034,934 円	743,034,934 円	0 円
計	3,144,354,156 円	3,144,354,156 円	0 円

1. 一般会計

(1) 日本赤十字社神奈川県支部

収入 1,449,445,755円

支出 1,063,443,925円



※構成比：小数点以下の四捨五入により合計が100%にならない場合があります。

(単位：円)

収入		決算額	主な内容
社資収入		1,206,523,611	会費、寄付金による収入
委託金等収入		14,111,884	令和6年能登半島地震にかかる災害補償収入
補助金及び交付金収入		3,648,550	本社からの交付金収入
繰入金収入		18,503,000	令和6年能登半島地震災害救助費、国際救護活動資金（保健医療支援、救急法普及支援、気候変動等レジリエンス強化）、事業準備積立金（施設使途指定寄付金を翌年度に繰り越して執行する際に用いる）
資産収入		3,315,150	物品売却収入
雑収入		9,464,110	講習会等負担金
前年度繰越金		193,879,450	前年度からの繰越金
計		1,449,445,755	

支出		決算額	主な内容
災害救護事業費		86,272,448	災害救護訓練、防災セミナー、救護資機材の整備等にかかる費用
社会活動費		109,063,976	救急法等の講習普及、赤十字奉仕団活動の推進、青少年赤十字の普及活動などにかかる費用
国際活動費		5,000,000	バングラデシュ保健医療支援事業、ラオス救急法普及支援事業、ルワンダ気候変動等レジリエンス強化事業にかかる費用
指定事業地方振興費		48,589,981	災害救護用医療機器の整備などにかかる費用
地区区分交付金支出		101,782,000	各市区町村における赤十字活動にかかる費用
社業振興費		114,200,342	赤十字思想の普及や会員増強運動、広報活動にかかる費用
基盤整備交付金・補助金支出		21,708,000	医療施設、血液事業の基盤整備にかかる費用
積立金支出		228,115,832	施設整備準備資金、退職給与資金、事業準備積立金などの積立金
総務管理費		142,876,121	職員の給与、社会保険、研修などにかかる費用
資産取得及び資産管理費		35,068,223	支部社屋の維持管理、修繕、損害保険料などにかかる費用
本社送納金支出		170,767,002	本社への繰出金
計		1,063,443,925	

収入支出差引額	386,001,830
---------	-------------

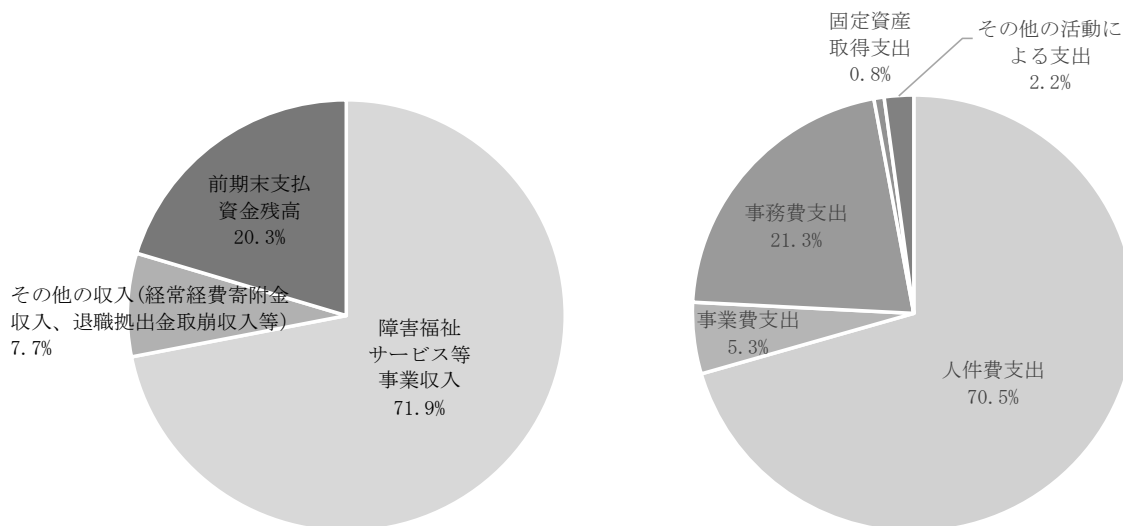
※収入・支出ともに、資金制度見直しに伴う特例措置による災害等資金から施設整備準備資金への積替分は除いています。

2. 社会福祉施設特別会計

(1) 神奈川県ライトセンター

収入 415,443,506円

支出 335,723,485円



※構成比：小数点以下の四捨五入により合計が100%にならない場合があります。

(単位：円)

収入	決算額	主な内容
障害福祉サービス等事業収入	298,867,620	神奈川県からの指定管理料
経常経費寄附金収入	118,800	寄附金収入
その他の収入	2,555,000	選挙公報等製作経費
その他の活動による収入	29,469,700	退職拠出金取崩収入
前期末支払資金残高	84,432,386	前年度からの繰越金
計	415,443,506	

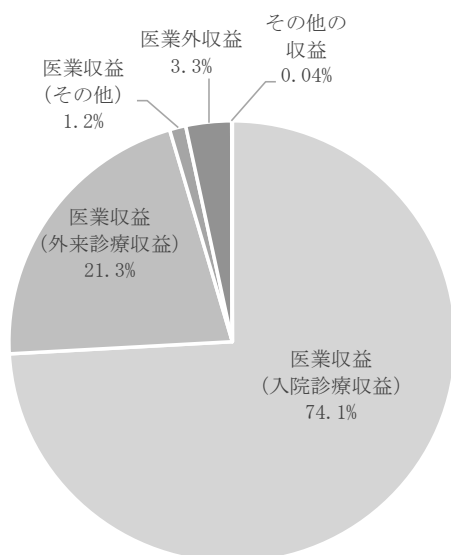
支出	決算額	主な内容
人件費支出	236,779,729	職員の給与、社会保険料
事業費支出	17,762,681	情報提供事業、指導訓練事業、ボランティア育成事業
事務費支出	71,433,796	施設の維持管理にかかる水道光熱費、業務委託費
固定資産取得支出	2,519,100	車輛運搬具、器具、備品取得支出
その他の活動による支出	7,228,179	退職給与資金特別会計への積立金
計	335,723,485	

収入支出差引額	79,720,021
---------	------------

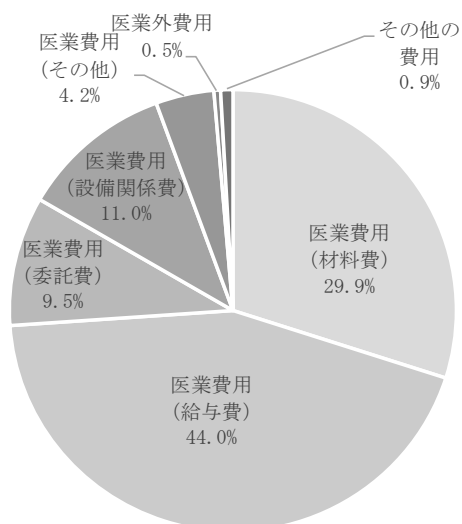
3. 医療施設特別会計

(1) 横浜市立みなと赤十字病院

収入 24,038,059,322円



支出 23,259,580,820円



※構成比：小数点以下の四捨五入により合計が100%にならない場合があります。

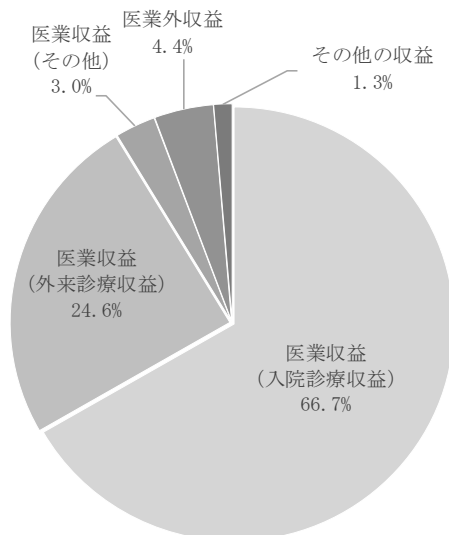
収入	決算額（円）	主な内容
医業収益	23,230,092,216	診療行為などにかかる収益
入院診療収益 (室料差額収益を含む)	17,817,675,639	入院患者への診療行為にかかる収益
外来診療収益	5,132,116,076	外来患者への診療行為にかかる収益
その他医業収益	280,300,501	健康診断、人間ドックなどの保健予防活動にかかる収益
医業外収益	798,581,338	国、県、市などからの補助金収益
その他の収益	9,385,768	本社、支部からの資機材等の受入による収益、固定資産売却による収益
計	24,038,059,322	

支出	決算額（円）	主な内容
医業費用	22,942,761,596	診療行為などにかかる費用
材料費	6,960,072,399	医薬品、診療材料などにかかる費用
給与費	10,231,777,642	職員の給与にかかる費用
委託費	2,201,018,085	業務委託にかかる費用
設備関係費	2,568,215,175	減価償却、修繕、保守などにかかる費用
その他経費	981,678,295	水道光熱費、賃借料、消耗品費
医業外費用	112,800,027	支払利息、看護師の養成などにかかる費用、院内保育所関係費
その他の費用	204,019,197	医療社会事業部門の職員の給与にかかる費用
計	23,259,580,820	

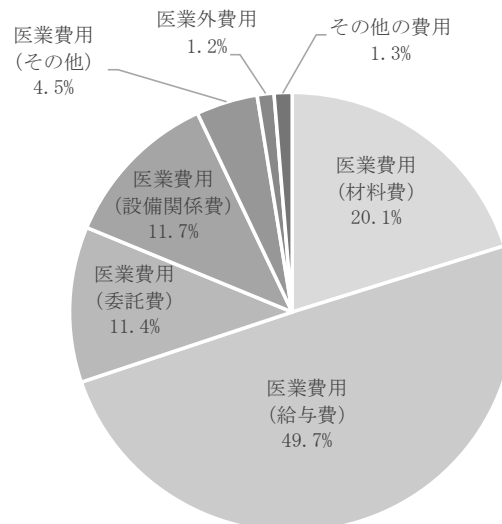
収入支出差引額（円）	778,478,502
------------	-------------

(2) 秦野赤十字病院

収入 6,642,057,468円



支出 6,935,925,861円



※構成比：小数点以下の四捨五入により合計が100%にならない場合があります。

収入	決算額 (円)	主な内容
医業収益	6,263,381,596	診療行為などにかかる収益
入院診療収益 (室料差額収益を含む)	4,430,297,390	入院患者への診療行為にかかる収益
外来診療収益	1,635,698,788	外来患者への診療行為にかかる収益
その他医業収益	197,385,418	健康診断、人間ドックなどの保健予防活動にかかる収益
医業外収益	289,721,917	国、県、市などからの補助金収益
その他の収益	88,953,955	訪問看護ステーションの運営、固定資産売却による収益
計	6,642,057,468	

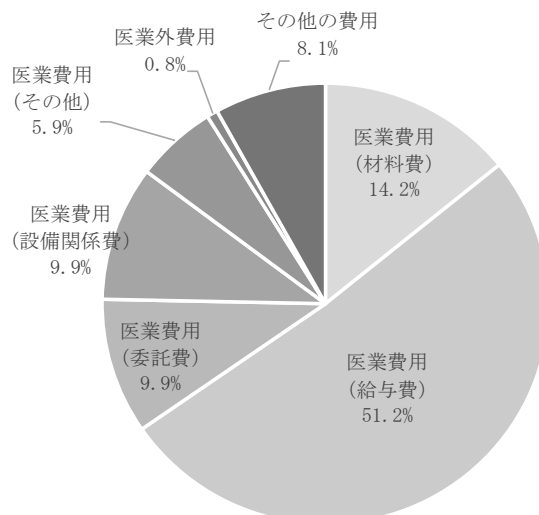
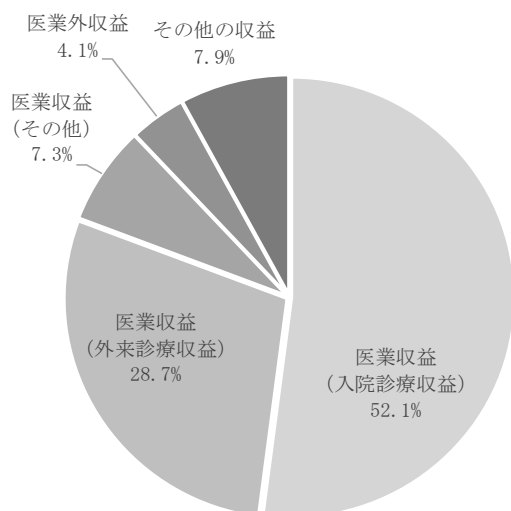
支出	決算額 (円)	主な内容
医業費用	6,760,984,429	診療行為などにかかる費用
材料費	1,395,353,383	医薬品、診療材料などにかかる費用
給与費	3,447,817,775	職員の給与にかかる費用
委託費	794,154,952	業務委託にかかる費用
設備関係費	813,807,153	減価償却、修繕、保守などにかかる費用
その他経費	309,851,166	水道光熱費、賃借料、消耗品費
医業外費用	85,007,345	支払利息、看護師の養成などにかかる費用
その他の費用	89,934,087	訪問看護ステーション及び医療社会事業部門の職員の給与、法人税にかかる費用
計	6,935,925,861	

収入支出差引額 (円)	△ 293,868,393
-------------	---------------

(3) 相模原赤十字病院

収入 3,361,658,850円

支出 3,327,176,057円



※構成比：小数点以下の四捨五入により合計が100%にならない場合があります。

収入	決算額 (円)	主な内容
医業収益	2,958,210,229	診療行為などにかかる収益
入院診療収益 (室料差額収益を含む)	1,750,449,518	入院患者への診療行為にかかる収益
外来診療収益	963,788,592	外来患者への診療行為にかかる収益
その他医業収益	243,972,119	健康診断、人間ドックなどの保健予防活動にかかる収益
医業外収益	137,325,330	国、県、市などからの補助金収益
その他の収益	266,123,291	訪問看護ステーション、市立診療所運営による収益
計	3,361,658,850	

支出	決算額 (円)	主な内容
医業費用	3,031,901,894	診療行為などにかかる費用
材料費	471,232,599	医薬品、診療材料などにかかる費用
給与費	1,704,086,769	職員の給与にかかる費用
委託費	330,652,775	業務委託にかかる費用
設備関係費	329,905,229	減価償却、修繕、保守などにかかる費用
その他経費	196,024,522	水道光熱費、賃借料、消耗品費
医業外費用	26,580,448	支払利息、看護師の養成などにかかる費用
その他の費用	268,693,715	訪問看護ステーション、市立診療所運営にかかる費用
計	3,327,176,057	

収入支出差引額 (円)	34,482,793
-------------	------------

(参考) 県内赤十字施設職員数

(令和7年3月31日現在)

	医師・ 歯科医師	看護師・ 保健師・ 助産師	薬剤師・ 医療技術 職員	事務職員	その他 看護助手 調理師等	計
日本赤十字社神奈川県支部	0	0	0	37	0	37
神奈川県ライトセンター	0	0	0	47	0	47
横浜市立みなと赤十字病院	248	649	196	141	59	1,293
秦野赤十字病院	61	231	65	49	32	438
相模原赤十字病院	32	123	38	60	18	271
神奈川県赤十字血液センター	24	153	9	224	0	410
計	365	1,156	308	558	109	2,496

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

